

式辞

長かった冬もようやく終わりに近づき、実栗の地にも春の気配が感じられるこの佳き日、多くのご来賓や保護者の皆様のご臨席を賜る中、兵庫県立山崎高等学校第70回卒業証書授与式を、このように盛大に挙行できますことは、この上ない喜びであり、深く感謝申し上げます。ただ今卒業証書を授与しました224名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。輝かしい門出を心から祝福します。今、皆さんの胸の中には様々な思い出が巡っていることでしょう。淡路島でのオリエンテーション合宿、文化発表会、体育大会、北海道でのスキー修学旅行、そして日々の授業や部活動など、学校生活の様々な場面を通じて、心身を鍛え、仲間との友情を育んできました。「山高街の駅」、高校生レストラン、インターンシップや国際交流にも積極的に取り組み、下級生たちの模範となってくれました。創立110周年記念行事での、万感の思いを込めた生徒代表よろこびのことば、そして生徒全員で力強い校歌の歌声を響かせたこと。昨年度はリオデジャネイロ五輪、この2月は平昌オリンピックでの日本勢の活躍に胸躍らせ、チーム力のすばらしさに感動しました。

また本校では、山崎断層を真下に抱え、防災体験活動を熱心に行ってきました。避難誘導や防災マップの作成、応急措置学習など、地域やPTAの方々と連携した取り組みが評価を受け、二年連続して三年生が兵庫県公館で活動発表を行いました。「自分たちが主役となって地域を守る」という姿勢と、「自分たちに何ができるか」という視点を忘れず、卒業後もふるさとに貢献してくれることを期待しています。明るくひたむきで、何事にも全力で取り組む皆さんの姿は、私たち教職員の励みであり、皆さんの成長を三年間見守って来たことに、大きな喜びを感じています。

保護者の皆様、これまで卒業生を支え続け、今日の晴れの日を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。入学以来、本校の教育に深いご理解と並々ならぬご協力を賜り、ありがとうございました。

お子様は卒業して行かれますが、今後とも末永く本校をご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、これから皆さんを待っているのは高度情報化、少子高齢化、グローバル化が進み、多様な価値観の渦巻く社会です。難しい問題に見舞われることもあると思いますが、校訓「希望・英知・敬愛」のもと、本校で学びを深めた皆さんなら、たくましく乗り越えて行けると確信しています。困難や問題が生じた時は、まず冷静に受け止め、自分自身を振り返ることが大事です。中国の学者・孟子はこう述べています。「ここに人有り。その我を待つに横逆を以てすれば、即ち君子は必ず自らに反るなり」自反尽己一自らに反り己を尽くすこと。すべてを自分の責任と捉え、自分の全力を尽くすことである。

また、将棋界で数々の大記録を打ち立て、史上初の永世七冠を達成し、国民栄誉賞を受賞した羽生善治氏は、自反尽己についての対談の中で、「一つのことに對して10年、20年、30年と同じ姿勢で、同じ情熱を傾け続けられるのが才能だと実感しています。結果はどうなるかわからないけれど、その時、その時に自分なりのベストを尽くすことが大事ではないでしょうか。」と、言っています。

物事がうまく運ばず失敗してしまった時、謙虚に反省の思慮を持ち、辛抱して継続することが進歩や前進・向上につながります。

ふるさとの学び舎から新しい世界へ飛び立とうとしている皆さん、創立110周年の記念すべき年度の卒業生として胸を張り、力強く未来へと羽ばたいてください。失敗を恐れず、試練を楽しむ勇気を胸に、夢や目標を実現されることを願っています。自分を支え、育ててくださった方々や、ふるさとの良さを忘れず、感謝できる心を持ち続けてください。前向きにチャレンジする強さと相手を思いやる優しさを持ち続け、周りから信頼される、そして次世代を切り拓く主役として活躍されることを期待しています。終わりにになりましたが、本日ご列席を賜り、卒業生の前途を祝福してくださいましたご来賓、並びに保護者の皆様に再度感謝申し上げます。皆様方の全面的な信頼とご支援により、今日の卒業証書授与式を迎えることができました。ここに厚くお礼申し上げます、式辞といたします。

平成30年2月28日

兵庫県立山崎高等学校長 野谷 るり子